

平成23年7月26日

各 位

会社名 太洋工業株式会社
 代表者名 代表取締役社長 細江美則
 (JASDAQ・コード: 6663)

問合せ先

役職・氏名 取締役管理本部長 阪口豊彦
 兼経営企画部長
 電 話 073-431-6311

平成23年12月期 第2四半期累計期間及び通期
 業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、平成23年2月3日付当社「平成22年12月期 決算短信」において発表いたしました平成23年12月期（平成22年12月21日～平成23年12月20日）の業績予想を下記のとおり修正することを決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正等

(1) 第2四半期累計期間（平成22年12月21日～平成23年6月20日）

	売上高	営業損益	経常損益	四半期純損益	1株当たり 四半期純損益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	2,311	74	78	18	3.25
今回修正 (B)	1,918	△48	△38	△44	△7.65
増減額 (B-A)	△392	△123	△117	△63	—
増減率 (%)	△17.0	—	—	—	—
ご参考：前期第2四半期実績 (平成22年12月期第2四半期)	1,934	7	30	15	2.69

(2) 通期（平成22年12月21日～平成23年12月20日）

	売上高	営業損益	経常損益	当期純損益	1株当たり 当期純損益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	4,658	145	147	50	8.59
今回修正 (B)	4,273	1	4	△35	△6.13
増減額 (B-A)	△385	△143	△143	△86	—
増減率 (%)	△8.3	△98.9	△97.2	—	—
ご参考：前期実績 (平成22年12月期)	3,942	68	102	79	13.62

2. 個別業績予想の修正等

(1) 第2四半期累計期間（平成22年12月21日～平成23年6月20日）

	売上高	営業損益	経常損益	四半期純損益	1株当たり 四半期純損益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	2,212	84	95	22	3.88
今回修正 (B)	1,865	△17	△7	△31	△5.39
増減額 (B-A)	△346	△101	△103	△54	—
増減率 (%)	△15.7	—	—	—	—
ご参考：前期第2四半期実績 (平成22年12月期第2四半期)	1,848	9	34	△4	△0.74

(2) 通期（平成22年12月21日～平成23年12月20日）

	売上高	営業損益	経常損益	当期純損益	1株当たり 当期純損益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	4,409	156	172	44	7.60
今回修正 (B)	4,053	△11	△5	△45	△7.72
増減額 (B-A)	△355	△168	△177	△89	—
増減率 (%)	△8.1	—	—	—	—
ご参考：前期実績 (平成22年12月期)	3,696	60	105	26	4.48

3. 修正理由

第2四半期累計期間連結業績予想については、主として電子基板事業において国内市場における試作需要の低迷により、販売が計画どおり進展しなかったこと等から、売上高は当初予想を392百万円下回る1,918百万円（前年同四半期比0.8%減）となる見込みであります。損益については、利益を確保するための業務効率化によるコスト削減等の努力を重ねたものの、電子基板事業及び基板検査機事業において受注が計画どおり進展しなかったことに伴う売上総利益の減少等の影響により、営業損益は当初予想より123百万円悪化の48百万円の営業損失（前年同四半期は7百万円の営業利益）、経常損益は当初予想より117百万円悪化の38百万円の経常損失（同30百万円の経常利益）、四半期純損益は当初予想より63百万円悪化の44百万円の四半期純損失（同15百万円の四半期純利益）となる見込みであります。

通期連結業績予想については、今夏には電力不足が一段と深刻化する懸念が強まっている他、円高や海外景気の変調による輸出の減速など先行きの不安要素が少なくありません。主力事業である電子基板事業においては受注単価の下落等を想定しており、基板検査機事業においては競合他社との価格競争の更なる激化を想定し、第2四半期累計期間の業績の状況を踏まえ、売上高は当初予想を385百万円下回る4,273百万円（前年同期比8.4%増）、営業損益は当初予想を143百万円下回る1百万円の営業利益（同97.6%減）、経常損益は当初予想を143百万円下回る4百万円の経常利益（同96.0%減）、当期純損益は当初予想より86百万円悪化の35百万円の当期純損失（前年同期は79百万円の当期純利益）となる見込みであります。

また、個別業績予想についても、前述と同様の理由により、当初予想と比較して売上高については下回り、損益については悪化を見込んでおります。

4. 平成23年12月期配当予想

第2四半期末配当金及び期末配当金については、平成23年2月3日付当社「平成22年12月期決算短信」からの変更はなく、第2四半期末配当は行わず期末に1株当たり3円の配当（年間配当金3円）を行う予定であります。

※本業績予想等については、現時点で入手可能な情報及び合理的と考える一定の前提に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等の様々な要因により、予想数値と大きく異なる可能性があります。

以上